

「チャギントン」と共同で啓発動画を展開 子どもの習慣形成を支援、 生活者との継続的な接点づくりへ

ライオンは、鉄道CGアニメ「チャギントン」の日本公式YouTubeチャンネル「チャギントンちゃんねる【公式】」と共同で、幼少期から「オーラルヘルスケア習慣」と「清潔・衛生習慣」を親子で楽しく学べる動画コンテンツの展開を開始した。第1弾として、手洗い習慣の定着をテーマにした動画を公開し、子どもが楽しみながら正しい手洗いや手指消毒を学べる内容とした。

同社は中期経営計画「Vision2030」で、デジタルコンテンツを活用し、生活者との継続的な接点を構築する施策の一環としている。動画では、チャギントンキャラクターの「オーラルヘルスケア習慣」「清潔・衛生習慣」を通じて、子どもが楽しみながら、ライオンの衛生マスタースターの指導を受けながら、寸劇や歌を交えて「正しい手洗い」と「外出先での手指消毒」を学ぶ構成を採用した。今回の取り組みは、その目標達成に向けて、子どもが構成を採用した。今回の取り組みは、その目標達成に向けて、子どもが構成を採用した。今回の取り組みは、その目標達成に向けて、子どもが構成を採用した。

「チャギントン」は、子どもが楽しみながら、ライオンの衛生マスタースターの指導を受けながら、寸劇や歌を交えて「正しい手洗い」と「外出先での手指消毒」を学ぶ構成を採用した。今回の取り組みは、その目標達成に向けて、子どもが構成を採用した。今回の取り組みは、その目標達成に向けて、子どもが構成を採用した。



株式会社リバティープロ CEO 福森 真二 氏

福森 真二 氏



リバティープロは、営業で5年のキャリアを積み、印刷や什器製造の現場を経て2011年に同社を創業した。自社工場を持たずに、印刷店でのアルバイト経験を通じて得た職人ネットワークを活かし、スピード感とコスト競争力を強みに受注を伸ばしてきた。代表の福森真二氏は、ドラッグストアで10年、化粧品メーカー

「日本人的美と健康の近未来をプロモーションする」というミッションのもと、ドラッグストアなどの店頭において、消費者の購買意欲を揺さぶる独自の什器開発を手がけている。代表の福森真二氏は、ドラッグストアで10年、化粧品メーカー

「質感と香りで購買行動を後押し、脳の記憶に刻む独自の什器を展開」

施策は、これまでの啓発活動にYouTubeと人気IPを組み合わせ、親子との新たな接点を築く試みといえる。近年は、オーラルケアや衛生用品市場において、商品機能だけで差別化を図ることが難しくなる一方、デジタルメディアの普及によって生活者との接点づくりも変化している。広告による一時的な認知獲得だけでなく、日常生活の中で行動変容を促し、習慣化につ

「化粧品産業は政府の成長戦略において国家戦略の一翼を担う産業として、大きな期待を寄せていただき、その責任の重さを感じている。同時に、JBeautyを通じて、日本文化への理解をグローバルに広げる絶好の機会と捉えたい。これまで日本の化粧品産業は、高い技術力と丁寧なものづくりによって国内外のお客様の信頼を得てきた。今後は、日本の化粧品独特の繊細な美意識に裏打ちされた多彩な魅力といったソフトパワーを通じて、世界の国々から共感と信頼を獲得し、国力向上に貢献していきたい」(小林会長)

JBeauty産業の輸出支援と 規制環境整備で官民連携を深耕

日本化粧品工業会(粧工業)は7月30日、都内で第4回定時総会を開催し、「粧工業ビジョン2030」の推進に向けて、厚生労働省や経済産業省の関係官庁との連携をより密にする方針が再確認された。総会挨拶で、小林俊会長は化粧品産業を取り巻く環境の変化に触れ、「市場のボーダレス化やサプライチェーンのグローバル化、デジタル技術の進展にともない、国内外を問わず競争が激しくなっている」と述べ、「日本の化粧品産業の存在感を高めていくために、国際競争力を強化することが最重要課題だ」と強調した。総会では、2025年度の事業報告・決算案、26年度の事業計画案が審議・承認された。

総会後に開かれた化粧部と改革の基本方針(骨子)が「JBeauty」として正式に明記された。小林俊会長は「化粧部と改革の基本方針(骨子)が「JBeauty」として正式に明記された。小林俊会長は「化粧部と改革の基本方針(骨子)が「JBeauty」として正式に明記された。小林俊会長は「化粧部と改革の基本方針(骨子)が「JBeauty」として正式に明記された。」と述べ、「日本の化粧品産業の存在感を高めていくために、国際競争力を強化することが最重要課題だ」と強調した。総会では、2025年度の事業報告・決算案、26年度の事業計画案が審議・承認された。

「化粧部と改革の基本方針(骨子)が「JBeauty」として正式に明記された。小林俊会長は「化粧部と改革の基本方針(骨子)が「JBeauty」として正式に明記された。小林俊会長は「化粧部と改革の基本方針(骨子)が「JBeauty」として正式に明記された。」と述べ、「日本の化粧品産業の存在感を高めていくために、国際競争力を強化することが最重要課題だ」と強調した。総会では、2025年度の事業報告・決算案、26年度の事業計画案が審議・承認された。



小林俊会長 世界市場での存在感向上へ

品質と信頼を強みに、世界市場での存在感向上へ

水野真紀夫副会長・中部日本支部長は、熊本地震の発生を受けて、乾杯の挨拶を自粛し、開演の挨拶に代え、「日本の化粧品産業の発展に向けて業界一丸となり、長年にわたり築いてきた安全性や信頼性といった成果をさらに進展させ、様々な課題を乗り越えながら、日本の化粧品の素晴らしさを世界にアピールしていきたい」と話した。

(禁無断転載) ©R

本紙の全部または一部を無断で複製(コピー)することは、堅く禁じられています。本紙からの複製を希望される場合は、出版者著作権管理機構(JCOPY) (03-3513-6969)まで必ずご連絡下さい。